

青年技術士懇談会



活動  
年鑑

Vol.2

第22B期 (2003年6月~2004年5月)

2004年6月

社団法人日本技術士会 調査委員会 青年技術士懇談会

## 目 次

- ◇ 巻 頭 言 . . . . . p 2
- ◇ 寄 稿 . . . . . p 5
- ◇ 各月例会活動報告 . . . . . p 8
- ◇ 委員・委員補佐、及び活動グループの紹介 . . . p 20
- ◇ 修習技術者エッセイ . . . . . p 31
- ◇ 委員・委員補佐の自己紹介、メッセージ . . . p 36

## 平成16年度の青年技術士懇談会年鑑（V o l . 2）のご案内

青年技術士懇談会委員長 時合健生

### 1. 発行目的と年鑑の活用

本年鑑では、青年技術士懇談会の活動を会員並びに非会員に周知させていただきます。その目的は、

- (1)日本技術士会・各部会・支部・委員会・会員に青年技術士懇談会の理解促進
- (2)日本技術士会事業に貢献したく、関係部署との”共同企画（講演会・見学会・C P D活動等）とその実施”をご検討して頂くためです。

本年鑑が活用され、各種の取組みが実現できれば望外の喜びです。また、本内容はHPにも掲載していますので、参照して頂ければ幸いです。

### 2. 青年技術士懇談会のご紹介

青年技術士懇談会は、全国7支部の45才未満の技術士、約2,200名の部門を越えた（若手）技術士で構成される会です。

若手の会員・準会員を対象とした相互研鑽や継続的なC P D教育の場を鋭意提供、並びに日本技術士会の事業（例会活動、支部交流活動、特別シンポジウム活動、国際交流活動、修習者の支援技術者活動／会員増加・指導技術士の紹介、技術士会の広報、試験業務協力、若年技術者の組織検討等）に積極的に貢献しています。

青年技術士懇談会のスローガンは、”開かれた、会員のための、サービス活動”で関係部署・委員会と連携して活動しています。

#### (1) 平成15年度の実施体制

対外的な活動グループは7グループ、会計・出席管理・規約改訂等の内務グループは3グループの合計10グループで構成しています。スタッフは委員12名、技術士補の委員補佐16名と特定グループ活動への協力者6名の合計34名です。

#### (2) 主なグループの活動報告

国際交流、広報活動、月例会、特別シンポジウム、支部交流、修習技術者支援、試験業務協力、出版・企画、組織・規約検討、会計の各グループで活動致しました。

### 3. 年鑑内容のご紹介

#### (1) 主な内容

10の各グループ活動実績、若手技術士補の青年技術士懇談会での活動エッセイ、メンバー紹介等が主な内容です。活動は、前述したスローガンに沿った青年技術士懇談会ならではの活動でした。

#### (2) 平成15年度の活動実績

##### ◎若手技術者の国際交流活動の実施（関係委員会、事務局や国際課と連携）

- ・2003年10月21～25日：インドネシア（CAFE0-21）へ3名派遣。

- ・2003年10月19～25日：中国（若手技術者の国家プロジェクト外視察）へ1名派遣。
- ・帰国報告会(03/12/06)を実施し、今後の若手技術者交流の第一歩を築くと共に記念品を技術士会に寄贈。

◎技術士会と青年技術士会活動の広報活動（関連部会や委員会と連携）

- ・青技懇HPとメールシステムの改訂／会合・行事等の情報を配付・配信すると共に、行事の参加申し込みが青技懇HPから出来るように実施。
- ・月刊技術士に活動予定、活動報告(H15.9月)を掲載し活動内容を内外に発信。

◎月例会の開催（関連部会や委員会と連携）

- ・講演会4回、見学会3回、研修会2回、特別シンポジウム。延参加者186名。

◎特別シンポジウムの開催検討（外に開かれた公開活動、情報工学部会と連携）

- ・坂村健教授を招待した若手技術者向けの特別公開シンポジウムの開催(04/05/15, 清野日本技術士会長も挨拶で出席, 参加者194名)。

◎支部交流の実施（全国7支部）

- ・全国7支部の若手技術者の交流促進を目的としたネットワークの構築（各々のHPに掲載）。
- ・第2回支部交流会（開催地大阪）：4支部16名参加（03/10/31）。
- ・第3回支部交流会（開催地東京）：全国7支部13名参加（04/5/15）。

◎修習技術者支援活動（修習技術者支援実行委員会や事務局と連携）

- ・宿泊の研修セミナーを修習技術者支援実行委員会と実施(03/11/23,17名)。
- ・1次試験合格者歓迎会での協力(04/02/28, 294名)。
- ・技術士補が企画した修習セミナー及び指導技術士紹介の実施(04/04/24,60名)。

◎試験業務への協力（試験センター要請業務への協力；H15年度の事例）

- ・第2次試験業務；主任監督員236名，本部員18名の募集と実施。
- ・第1次試験業務；主任監督員151名，本部員16名の募集と実施。

◎若手会員（修習技術者も含む）を母体とした会誌の作成及び書籍出版活動

- ・当会の活動内容を年鑑として作成し関係部署に配布。
- ・配付先：常設委員会、実行委員会、部会、各支部・青懇支部等約40ヶ所。

◎総会開催及び会の効率的な運営（政策委員会と連携）

- ・総会の開催と効率的で透明な会運営を進める規約改訂を実施(03/06/28)。
- ・政策委員会にて、若手会員を対象とする組織検討を実施(04/04/15)。
- ・ヴィジョン策定特別委員会に委員を派遣。

等です。

#### 4. 今後の活動

青年技術士懇談会は、上記活動をさらに充実・深化させると共に、今後ますます増加することが予想されます若手技術士と修習技術者を対象とした魅力ある活動の場を提供することに注力していきます。特に今年度、達成した全支部青技懇ネットワーク構築は、青技懇の特徴である部門を横断したネットワークを更に全国に広げていくものであり、今後の展開にご期待頂きたいと思っております。

平成16年度、更にその先に向けての課題は次の通りです。

- (1) 月例会の魅力アップ、参加率向上及び特別公開シンポジウムの開催
- (2) 全国大会や青技懇主催シンポジウムを通じた支部間交流の促進
- (3) 15年度に引き続き、魅力ある海外交流活動の促進
- (4) 修習技術者および修習技術者をめざす若手技術者、学生への支援
- (5) 若手技術者が活動する組織検討
- (6) 試験監督業務への協力並びに活動年鑑等の作成と活用

上記活動報告等にある現状と今後予想される若手技術者の増加、技術士会の国際化等も含めた広い視点から、青年技術士懇談会は自身のあり方と活動をブラッシュアップしていきます。

このような中であって青技懇のあり方について皆様にご理解頂き、今後も技術士会各方面、賛助会員各企業、青技懇OB、青技懇会員からのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

## 寄稿

### 青年技術士懇談会への期待

修習技術者支援実行委員会 前委員長 佐藤国仁

日頃から貴会の全面的な支援をいただいている修習技術者支援実行委員会を代表して貴会に対し深く感謝すると共に、貴会に期待していることを申し上げます。

一つには、年代の架け橋となることです。

青技懇の皆さんは、技術士会において中堅若手という年代にあり、100歳にも手が届く大先輩から、20代前半の若い修習技術者まで、1世紀に近い年代の広がりを持った会員を結びつける立場にあります。修習技術者に対するサービス提供において、これはすでに有効に実行いただいています。多くの修習委員は、若返りつつあるとはいえ、修習技術者から見れば大先輩となってしまうています。それに比べて、青技懇メンバーは、年代も近く、皆さんに運営を担っていただくことで、修習技術者が参加しやすい、発言しやすい雰囲気を作っていただき、事業の活性化に大いに貢献いただいています。

青技懇そのものが、技術士会において、若手会員がまず立ち寄る機関となっており、会の魅力を代表するポジションを確立しています。年代の架け橋としての存在は、部会、支部活動においても重要であり、今後さらに充実させていただきたいと願っています。

二つには、現状の問題発見をし、問題提起をすることです。

青技懇は、日本技術士会における青年部です。青年部の役割は、その組織の問題点を探り、問題提起をすることにあります。組織というものは、全てその歴史的経緯に制約されて、さまざまな解決しきれない問題を抱えているものです。日本技術士会もその例外ではありません。青技懇は、技術士会が抱える問題を自由に考察し、その問題の本質を探り、提起することのできる機関です。技術士、そして技術士会のあるべき姿を描き、それと現実との乖離を分析し、そこに内在する問題の本質を探って、問題提起をしていただきたいと思います。

ちなみに、私個人が考える最大の問題とは、専門職技術者としての技術士（プロフェッショナル・エンジニア）の概念・定義が曖昧なままに放置されていることにあると考えています。専門職の定義とは、専門能力を保有し、行動原則に則って業務を遂行し、それらの能力を維持発展させる専門職団体を結成し、その存在が社会から認知されている、とされています。技術士の持つべき能力、技術士会が果たすべき役割は、この定義から演繹されるべきものと考えます。

当面の課題を踏まえることも大事ですが、それ以上に、青技懇にはあるべき将来目標を正確に捉え、問題提起を続けていただきたいと思います。強く望むものです。

そして、三つには、次代の技術士会を担う準備を進めていただきたいと思います。

日本技術士会は、多くの学協会が会員減少に苦しんでいる中、長期に亘って会員数が右肩上がり成長を続けています。しかし、日本技術士会はもっともっと社会において重要な役割を果たさなければなりません。社会の真の期待を察知し、応えることのできる組織へと脱皮していくためには、いま青技懇に集う皆さん自身がさらに成長して先輩を乗り越え、近い将来、技術士会の運営を担っていただきたいと思います。念じています。

修習技術者支援実行委員会は、この6月に委員長が改選され、新委員長として岩熊眞起氏を選出いたしました。今後は、岩熊新委員長のもとに、貴会との連携をますます強めて、修習技術者への支援活動を強化させていきたいと望んでおります。ご支援をよろしくお願いいたします。

## 「公開シンポジウムでもらったエネルギー」

情報工学部会長 安田 晃

「坂村先生を呼んで欲しい。基調講演にパネルディスカッションも含めて3時間」と聞いたとき、「あの超多忙な人を3時間とは無茶なことを！」と一瞬思った。しかしそのテーマ「日本経済再生のキーワード：国産技術を育て・活かすには、私たち技術者は何を考え、何にチャレンジしていくべきか？」を聞いた時、ひょっとしたらという思いが頭をかすめた。そんなに深くはなく断続的ではあったが坂村先生と20年近くお付き合いをしてきて、先生の国産（コンピュータ）技術にかける情熱と信念は並大抵ではないことを知っていたからだ。

ダメモトのつもりで坂村門下助教授の越塚先生にも骨折っていただき、「このテーマをお話いただけるのは坂村先生のほかには居ない！」とお願いしてみた。越塚先生とは、マルチメディア国際標準化推進委員会で日本発の国際標準化について一緒に活動した間柄だった。結果、坂村先生にしては桁違いの謝金であったが、「録音録画をしない」条件で引き受けてもらえることとなった。

こうして、平成16年度第2回特別公開シンポジウムに、坂村先生は無事出演いただけることになった。そして、私にパネルディスカッションのコーディネータ役の依頼があり、坂村先生を良く知っていることもあり引き受けることにした。講演内容の事前打ち合わせに関しては、忙しい先生に新しく講演内容を創作していただく訳にもいかないので、「普段他でも講演されているTRONやユビキタスタグの紹介の中に、本テーマに関するメッセージを込めてお話しください」とお願いした。

さて、6月15日の公開シンポジウム当日、予想通り先生はTRONの紹介スライドを使い講演を

始められた。しかし、TRONの紹介は10分程度で、その後は、いつも他で聞いている講演内容とはまったくちがっていた。B-TRON（パソコン用のTRON-OS）が米国の圧力を受けた時の顛末や、中国や韓国におけるオープンソフトとしてのTRONの展開など、先生から「録音録画禁止」を求められた理由がなるほどと思える話であった。

それはまさに、坂村先生がIT分野で国産技術を創造していく過程の壁と、それを乗り越えてきた歴史でもあった。先生は、普段他でしている話を流用されたのではなく、「国産技術を育て・活かすには、私たち技術者は何を考え、何にチャレンジしていくべきか？」に絞り込んで、自分の実体験をぶつけてこられたのである。その熱のこもった話は、昼食後にもかかわらず誰も居眠りをさせないだけの迫力があつた。しかし、あまりに絞り込まれていたために、TRONやユビキタスの最新技術の話聞きに来た人達には不満が生じたのではないか（これは、アンケートを後から見て無用なことと分かったが）と少しあせり、パネルディスカッションの最初にTRONやユビキタスIDのWebの紹介をした。その後、3人の技術士が加わりパネルディスカッションを行い、無事シンポジウムは終了した。

今回、情報工学部会として幹事や部会員とともに、青年技術士懇談会の活動に協力させていただき、青技懇の皆さんの実に精力的な行動を見て、新鮮な革新源エネルギーをふんだんにもらったように思います。改めて関係の皆様にお礼を申し上げ、今後の連携を願う次第です。

## 出会いと勝負

電気電子部門 小針輝夫

8ms（千分の8秒）で刀は振り下ろされる。TVは33msで一枚の画面が送られる。だからTVで剣道の試合を見ている、どっちが勝ったか分からない事がある。瞬間の勝負とはかくの如きか。我々にとって人との出会いは大切である。「今日は！始めまして！」では終わらない、一瞬がある。仕事をする、「・・・・こうしたら如何です」この一瞬で仕事の成否が決まる事がある。

技術士はプロである。プロ野球の選手が、ボールを一瞬にして捉え、ヒットを打つ、空振りに終わる。大相撲の力士が立会いの一瞬に総てを賭ける。技術士もプロを名乗るなら、一瞬に全精力を傾けなければならない時がある。

青年技術士懇談会で活躍するメリットは何か？「様々な分野のプロと差して話ができる」これに優るものは無い。「技術士会に入っても何も得にならない」という人は「人に会うことが自分のために成らない」と信じ込んでいる人であろう。そう技術士会は優れた人士の集まりである。

凡そ30年前、技術士会に入れていただき、恐る恐る電気部会に出席した未だ青二才の私は、小さくなって先輩方の言われることを細大漏らさず聞き逃すまいと、耳を傾けていた。コンサルタント会社の重役や社長さん方であった。「先生！初めての出席のようですので、自己紹介をどうぞ」と水を向けられ、同じ会員として同等に扱っていただいた事に興奮した。同時に「瀬踏みされて居るんだな」と硬くなった。青技懇の例会をはじめ、全国大会や幾つかの活動の下働きをさせて頂いたりしている間に、様々な方との出会いがあり、何人かの先輩の知遇を得、お引き回しを頂くことができた。技術士の先輩方は笑顔の下に鋭い眼差しを秘めていた。

技術士会は「高等の専門的応用能力」を有する技術者の集まる場所ではあるが、それだけではない。紳士の作る小宇宙である。先方もジッと此方を瀬踏みしているが、此方も同じである。「付き合える奴か？」と。一瞬の会話がその後の付き合いの深さと永さを決める。しかし、決して「その瞬間だけいい子になっていよう」などと思っても許しては貰えない。プロとはかくの如きか。

青技懇での活動がこれからの人生の大きな資源になるか、単なる昔話のひとこまになってしまうか、それは誰の事でもない。あなた自身の毎日の研鑽が総てである。

（技術士会のビジョンを作ろう！ということで青技懇の皆様を代表して野村先生に特別委員会に入らせていただく事になりました。これが切っ掛けになり、政策委員会と青技懇の関係が深くなりました。お勧めに従い拙文を呈します。）

（社）日本技術士会副会長・政策委員長

## 月例会活動報告

月例会のテーマと出席者数

<2003年6月～2004年5月>

年 月	出席者数	テ ー マ
2003年6月	35人	青年技術者懇談会総会
2003年7月	21人	「ノウフー」として若手技術者3名の講演
2003年8月	16人	ビアパーティー
2003年9月	17人	ファミリー見学会 「地質標本館」
2003年10月	17人	講演会「環境問題」
2003年11月	19人	講演会「新卒・若手社員の育成について」
2003年12月	25人	中間報告会、忘年会
2004年1月	25人	労働安全コンサルタントから見た 最近の労働安全衛生マネジメントシステム
2004年2月	10人	見学会「雪印乳業横浜チーズ工場」
2004年3月	35人	修習技術者 講演会・グループディスカッション
2004年4月	9人	日本の海洋技術の現状 見学会「海洋研究開発機構」
2004年5月	195人	第2回 特別講演シンポジウム メインゲスト：坂村 健 東京大学教授

\* 各月例会の議事録を次項以降に紹介します。

## 6月例会

テーマ：「青年技術士懇談会総会」

日時：2003年06月28日（土） 13:30～16:00

場所：(株)建設技術研究所 2F 会議室 出席者 35 名

内容（議事録）：

●平成14年度（第22A期）活動報告

1)国際交流Gr.（伊藤委員補佐）2)広報・インターネット関連Gr.（秋好委員）3)例会支援活動・出席管理Gr.（原田委員補佐）4)特別シンポジウム実行Gr.野村副委員長）5)修習技術者支援Gr.兼連絡員（笠井委員）6)技術士試験業務Gr.（桜井委員）7)出版企画ワーキングGr.（松浦委員）8)支部交流Gr.兼支部連絡窓口（桜井委員）9)組織・規約改定検討Gr.（時合委員長）10)会計Gr.（野村副委員長）

全ての活動報告内容は参加者全員の拍手を持って了承された。

●規約改定について

「社団法人日本技術士会 調査委員会 青年技術士懇談会規約案」を配布し、質疑応答の後、参加者全員の拍手を持って了承された。

●22B期委員の選任及び委員交代（☆印は委員補佐（技術士補、修習技術者）

以下の通り、委員の交代について承認された。

1)退任委員：手塚史展（衛生工学）、正司康雅（機械）、☆伊藤英忠（応用理学）

2)新任委員：木下英也（経営工学）、平野輝美（化学）、小松秀次（建設）☆掛川昌俊（衛生工学）、柳沢剛（農業）、☆斉藤稔（機械）、☆前田香奈（生物工学）、☆田村裕美（建設）、☆佐々木るみゑ（生物工学）、☆藤田道男（環境）、☆前田正吾（環境）

●中国・四国支部活動紹介

森岡代表幹事から紹介後、支部交流を進めていきたいとの意見があった。本会としては、支部との交流も活発化したいとの意向を委員長が述べた。

●グループ配置決め

1)委員長：時合＝継続、2)副委員長：野村＝継続、松浦＝新任、小松＝新任、3)国際：山田、4)広報：平野、5)出席：佐藤(大)、6)シンポ：松浦、小松、7)修習：佐藤(嘉)、6)試験：木下、8)出版：松浦、9)支部：桜井、10)組織：時合、11)会計：笠井

●今年度予算案

「22B期予算案」を配布し、質疑応答の後、参加者全員の拍手を持って了承された。

（原田 篤史 記）

## 7月例会

平成 15 年 7 月 18 日（金）18 時 30 分～21 時

暮手第二ビル、出席者 21 名

「ノンフー」として若手技術士 3 名が講演を行った。

### 1. 「ネットワーク社会でのトラブルに御用心」

日本電技(株) 松浦 勝博氏

ネットワークの普及に伴い、急増する犯罪やトラブルについて、自らの経験を踏まえ具体例を挙げて説明された。

犯罪編では、ネット利用料金の架空請求が葉書やメールで送られて来る事例とその対処方法について。

また、トラブル編では、ネットワークコミュニケーションで陥りやすい人間関係上のトラブルについて、非常に分かり易く説明頂いた。

### 2. 「四方山話」

横浜市環境保全局 黒澤 之氏

まず、意外と知らない政令地方都市の位置付けから始まり、産業廃棄物問題の苦労話、サッカーW杯会場建設の経緯、「踊る大捜査線」撮影秘話等、まさに「四方山話」をリズムカルに講演頂いた。

自治体職員で技術士としても活躍されている氏の実体験に元づいた講演は、行政としての問題解決の難しさを提言した。

### 3. 「E-Pro 舞台裏／その隠された真実と汗と涙の物語」

(株)建設技術研究所 野村 貢氏

今年の 5 月に開催した E-Pro（第 1 回公開シンポジウム）の企画から開催に至る経緯や裏話をプロジェクトマネージャーである野村氏から講演頂いた。

人脈編では、どうやってノーベル賞受賞者である江崎玲於奈博士に講演依頼をお願いし、了承を得たかについて。

スケジュール編では、開催までの工程管理とスタッフの役割分担について。

プロジェクトマネジメント編では、プロジェクト運営の落とし穴や成功の秘訣、今後の課題等について、非常に分かり易く説明された。

ボランティア的活動の中でプロジェクトを成功に導いた氏の講演は、非常に説得力があり今後のプロジェクト運営の基礎になるものであった。

(小松 秀次 記)

## 8月例会

テーマ：「ビアパーティー」

日時：平成 15 年 8 月 2 日（土）18 時 30 分～20 時 30 分

場所：新宿「HUB」、出席者：16 名

内容（議事録）：

今年の 8 月例会は、毎年恒例となったビアパーティーを開催した。親睦と情報交換を目的とした会で、例年は技術士 2 次試験の 2 日目終了後に開催していたが、今回は初日終了後に開催したこともあり参加者は 16 名とやや小規模の会になった。

出席者は、フレッシュな若手修習技術者から経験豊富なベテラン技術士まで多彩な顔ぶれが勢揃いした。

話題も最新の情報交換から来年開催予定の第 2 回公開シンポジウムまで多岐に渡り、熱い議論が交わされ今回も盛大な会となった。（小松 秀次 記）

## 9月例会

テーマ：ファミリー見学会

日時：平成 15 年 9 月 27 日（土）13：30～15：30

場所：地質標本館

つくば市東 1-1-1 産業総合研究所 地質調査総合センター附属

内容（議事録）：

**9 月例会は、ファミリー見学会として昨年度の「地図と測量の科学館」に引き続き、つくばの博物館に遠出した。**

地質標本館は、日本で唯一の地学専門の総合博物館であり、大きく 4 つに分けられたブースでは、地質標本だけでなく地学全般と地球の歴史・メカニズム、人間との関わりについてわかりやすく展示を行っている。

本会は小学生以上の児童は参加可能（理解可能）として、日頃多忙な青年技術士の方々の家庭サービスともなるように企画した結果、小学生含む 17 名の参加を得た。

折良く、特別企画として富士山が取り上げられており、普段遠望しているだけの我が国最高峰が実は活発に活動していることなど興味深い展示が見られた。また、本館の展示には世界最古の岩石など稀少なものも多く、限られた時間内ではすべてを見切れないほどであった。

つくばの各研究所の附属博物館、科学館は非常に内容が充実したものが多く、殆どがファミリーでも楽しめる企画を組んでおり。今後も例会ほかで積極的に紹介していく予定である。

以上（野村 貢 文）

## 10月例会

### テーマ:環境問題

日時:平成15年10月24日(金)18:30~20:30

場所:日本技術士会第二葺手ビル5階(A会議室) 参加者:17名

内容(議事録):

企業にとっての「環境問題」は無視できないテーマでもあり、むしろこれを積極的に取り入れ差別化を図っているような先進企業の取組は大変興味深いものです。また、開発と保護との間で環境アセスメントが果たしている役割は少なくありません。

そこで今回は環境特集として、環境先進企業の最前線で御活躍の視点と、環境アセスメント業務に長年携わってきたコンサルタントの視点からお話をいただきました。

キャノン(株)の木村様からは、「サステナビリティ報告書」(環境報告書に経済・社会面を拡充し持続可能性報告書に進化させたもの)を参照しながら「環境経営」に関するお話しをいただきました。全社的な取組が必要であること、環境への取り組みで社会に貢献すること、といったお話しからは「共生」という企業理念が感じられました。また、「資源生産性の最大化が省エネ効果で経営的にも貢献するし、環境負荷の低減につながることから持続可能な社会への貢献につながる」という環境と経済の両立するというお話しは印象的でした。

パシフィックコンサルタンツ(株)の洪沢様からは、日本の環境アセスメントの歴史と各段階の内容についてお話しいただきました。「環境影響評価法」が平成9年に制定されるまでの紆余曲折があったこと、その波の中でいろいろと苦労されたことなど、知られざる内幕を聞くことが出来ました。また、環境アセスメントの新しい動きとして、「計画・構想段階」に踏み込んだより上位計画での環境配慮が求められていくといった情報もいただきました。

環境問題は内容的にも時間的にも空間的にも非常に広がりを持った問題で、地球環境問題に見られるように人類存続にかかわるような問題としても突きつけられていることから、あらゆる主体が役割を果たすことが求められています。青技懇は全部門を横断した組織ですからこの問題の取組に適しており、意識啓発のためにも今後も環境問題を取り上げていきたいと思えます。

以上 (笠井 睦 記)



## 11月例会

### テーマ:新卒・若手社員の育成について

日時:11月7日(金)18:30~20:30

場所:日本技術士会第二葺手ビル5階(A・B会議室)

内容(議事録):

最近、「新卒・若手社員に元気がない」「すぐ辞めてしまう」「若手が“使えない”」あるいは「忙しくて教育している暇がない」などと感じていらっしゃる方は多く、若手、管理職ともにコミュニケーションが取れないようである。

11月の例会では講演者にR社の西山氏を迎え、監督職、管理職の方を中心とした新卒・若手社員の育成についての講演とケーススタディーを行った。ケーススタディーでは20代~40代のメンバーが議論を交わしたが、業種職種の違いによるところかややぎこちなさがあった。

例会の最後に西山氏から、やれる事 Can、やるべき事 must、やりたい事 want の3つの円が交わる中心を考えることが若手の育成のみならず、多くのシーンで活用できるとのコメントを頂いた。

以上

## 12月例会

### テーマ:中間報告会、忘年会

日時:平成15年12月20日(土)15時~19時

場所:中間報告会:第2葺出ビルA会議室、忘年会:竹の庵 出席者25名

内容(議事録):

#### 1. 中間報告会

前半期の活動報告会と後半期へ向けての活動内容について討議を行った。主な討議内容を以下に示す。

- 1) 国際交流グループ:2003年の海外派遣に関する報告が行われた。
- 2) 出版企画グループ:活動報告のレビュー(日本語・英語)や年鑑の作成ならびに一般書を、修習技術者も含め、出版企画する。
- 3) 支部交流グループ:①支部交流活動の拡大、②継続的な支部交流の定着、③合同企画の立案実施、④他グループへの活動の展開、⑤人材ネットワークの構築、を今期実施計画として掲げ、成果が得られた。
- 4) 修習技術者支援グループ:修習技術者研修セミナーを修習委員会と共催した。今後、一次試験合格者歓迎会の運営支援、修習技術者のための例会などを予定している。
- 5) 広報・インターネット関連グループ:①青年技術士懇談会ホームページの再構築、②メーリングリストの再設定、③ニュースリストに再設定、④インタラネットの利用設定、⑤サーバー契約の変更、⑥サーバー契約の更新、を実施した。
- 6) 技術士試験支援グループ:第一次試験の本部員・主任監督員の募集業務を行った。
- 7) 特別シンポジウム実行委員会:坂村健東大教授をお招きし、5月15日(土)に特別公開シンポジウムを開催する。「日本経済再生のキーワード:国産技術を育て、活かすには、私たち技術者は何を考え、何にチャレンジしていくべきか」をテーマとして、講演、パネル討論を行う。
- 8) 規約改定グループ:①事務局との連絡会の開催、②グループメンバーでの討議、③委員・委員補佐へのメール打診、④中間報告会の幹事会に執行部案の諮問、を行った。
- 9) 出席管理グループ:①22B期用出席管理フォーマットの作成と更新、②例会活動での参加者管理業務、③CPD申請に対応した出席管理・名簿管理、を行った。

2. 忘年会:委員会終了後、会場を移して恒例の忘年会を開催した。

(佐藤嘉憲 記)

## 1月例会

**テーマ:**労働安全コンサルタントから見た最近の労働安全衛生マネジメントシステム  
—労働安全衛生法の制定の流れを通じて

日時：2004年1月23日（金）

場所：日本技術士会第二葺手ビル5階会議室

内容（議事録）：

1月の例会は「労働安全コンサルタントから見た最近の労働安全衛生マネジメントシステム—労働安全衛生法の制定の流れを通じて」と題し、労働安全コンサルタントの近藤晴雄先生に講演を戴いた。

まず、労働安全コンサルタントという資格について、一般に認知度が低く、あまり知られていないので、それがどのような資格であるのか、資格取得の方法、その役割や企業に対する具体的な活動について説明を受けた。

また労働安全衛生コンサルタント会各支部が特別安全診断業務などを通じ、各都道府県の労働局など行政に協力し、一般企業の労働安全衛生活動の向上に寄与しているとの説明があった。

次に、講演者が経験した実際の安全診断・指導の実例について、写真をまじえて改善指導の実施例について解説して戴いた。

最後に、最近の労働安全衛生マネジメントシステムについての内容を、ISO9000・14000の審査員の資格をお持ちの先生らしく、労働安全衛生マネジメントシステムと、ISOとの関係という複合的な見方をされて比較解説して戴いた。

ひとつの関係を統合的に見る複眼的解説は、皆様、聴講者の役に立つ事でしょう。

講演後の質疑応答に関しては、労働安全コンサルタントの収入関係や労働安全コンサルトを受験するための免除科目等について、さらには、労働災害による労働安全衛生法違反の訴訟に関する質問には なかなか即答出来ない内容ですが、先生には、訴訟による金額を判例含めて回答して戴いた。

参加者25名、少しでも、労働安全コンサルタント、労働衛生コンサルタントについての認識をもって戴けたら幸いです。  
(戸谷次延 記)

以上

## 2月例会

(活動記録なし)

## 3月例会

### テーマ: 修習技術者

日時: 平成16年4月24日(土) 10:30~17:30

場所: 茸手第2ビル A,B 会議室

内容(議事録): 講演会・グループディスカッション 参加者35名

#### 1 指導技術士相談会

青年技術士懇談会の例会において、「技術士補として技術士を補助し、技術的な指導を受けたい」という相談が多く寄せられていたことから、身近に技術士がいないために登録も技術的相談もできない第一次試験合格者が相当数いると推察された。今年度は修習技術者を対象にした3月例会に併せて、指導技術士を探すことを目的にした相談会を初めて実施した。

相談員は青年技術士懇談会の現委員及び委員補佐、同委員会の委員経験者を中心に9名、修習技術者支援実行委員会より1名、その他部会等から2名の計12名の協力を得ることが出来た。始めに10分間の主旨説明を行い、続く約1時間20分を部門毎の相談員と合格者が直接話す場として設定した。

合格者からは「技術士に直接色々な話が聞けた。」、「指導技術士を見つけることが出来た。」、「二次試験に向けて色々な話が聞けた。」など概ね好評の意見をいただいた。また相談員と専門分野の異なる参加者からは、「指導技術士の斡旋を部会に依頼して欲しい。」などの要望も聞かれた。

相談会は、青年技術士懇談会委員補佐である修習技術者が中心となって企画・実施したものの、合格者の要望は指導技術士探しにとどまらず、青年技術士懇談会だけでは、多部門の合格者全ての要望に応えることは難しい。今後は修習技術者支援実行委員会や各部会とも連携をとる必要性が感じられた。

#### 2 3月例会

講演として、青年技術士懇談会で実施した国際交流活動の報告と平成16年5月15日に行われる青年技術士懇談会第2回特別公開シンポジウムの告知を行った。国際交流活動の報告は、昨年初めて海外(インドネシアおよび中国)へ3名の委員、委員補佐を派遣し、諸外国と交流をもったもので、その概要及び成果を紹介した。また、第2回特別公開シンポジウムの告知を行った。

グループディスカッションでは、参加者は6人から7人の5グループに分かれて、テーマを「時間管理方法」、「情報収集方法」、「業績アピール方法」から選択し、各グループに配置した技術士のコーディネーターと共に議論し、グループ毎に検討結果を発表した。



写真一 指導技術士相談会



写真二 グループディスカッション発表

## 4月例会

テーマ：日本の海洋技術の現状

日時：平成16年4月16日(金)13:30～16:00

場所：〒239-0061 横須賀市夏島町2-15 海洋研究開発機構 参加者：9名

内容(見学、議事録)：

4/16(金)に青年技術士懇談会主催で海洋研究開発機構の見学会を行いました。

当日は天候にも恵まれ、陽の光と潮風を感じながら海洋工学と地球環境を学び、日本の海洋技術は、

世界最先端であることが認識されたと思います。潜水調査船の支援母船に乗船したり、しんかい6500

の運転室の広さを体感したり、また、海洋エンジニアと技術士による海洋開発に関する質疑応答、意見

交換と有意義なひと時を過ごしました。海上波力発電のビッグプロジェクトに参画したエンジニアからの発言であった「技術的に悩んだ時は、飲んで寝る、そして誰も考えない事をわざとやってみる」は、印象的でした。都心から遠いこともあり参加者が少なかったことが残念でした。

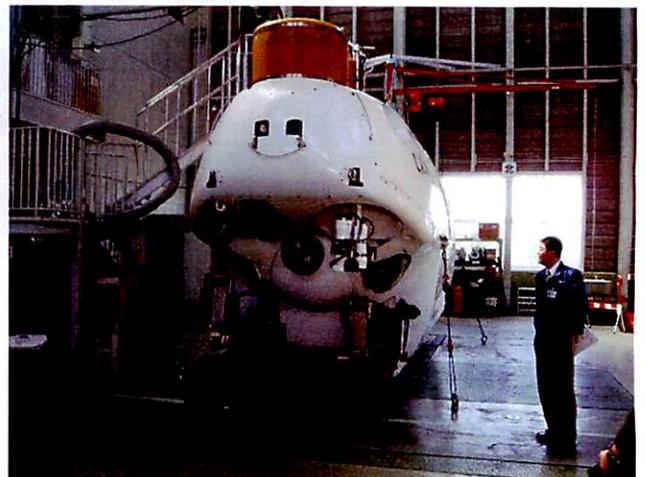
### 【当日のスケジュール】

- ①13:30～13:40 挨拶・概要説明
- ②13:40～13:50 ビデオ上映【ニュースハイライト】
- ③13:55～14:10 支援母船【よこすか】乗船
- ④14:15～14:30 有人潜水調査船【しんかい6500】整備場見学
- ⑤14:35～14:50 高圧実験水槽棟見学
- ⑥15:55～15:10 展示ロビー(模型、深海生物):海洋科学技術館見学
- ⑦15:15～16:00 海洋エンジニアと青年技術士との質疑応答、意見交換

参加者(敬称略):計9名

宮崎、犬伏、榊本、笠井、桜井、佐藤、斎藤、小松、木下

CPD:2ポイント



## 5月例会

### テーマ:第2回特別公開シンポジウム

日時:平成16年5月15日(土)13時00分~16時30分

場所:発明会館

内容(議事録):参加者195名(スタッフ含む)。

#### 1. 実施目的と背景

現在その技術の発展がめざましいIT(Information Technology)や航空宇宙技術は欧米諸国主導であり、これらの技術のほとんどを輸入している状況であります。かつて日本が最も得意とし、大きな経済成長を支えた高度な製造技術も今や他のアジア諸国に追い抜かれ、経済状況の悪化と相まみえて現在の日本には元気がありません。しかしながら、携帯電話に代表されるような通信技術、高精密技術など日本が得意とする技術も無いわけではないのです。そこで国産技術の見直しを行い、今後日本から世界に発信する技術を育て、日本経済を発展させるためには、私たち技術者は何を考え、何にチャレンジしていく必要があるのでしょうか?上記社会的ニーズを反映したシンポジウムを日本技術士会の開かれた活動の一環として開催し、社会に貢献することがこのシンポジウムの大きな目的であります。

そこで今回のシンポジウムでは、国産技術の研究・開発や普及活動を焦点にあて、国産OSであるTRONの開発・普及に世界的に活躍されている 坂村 健 東京大学教授をメインゲストとしてお招きし、特別講演を実施していただくとともに、我々技術士とのパネルディスカッションを実施しました。

このシンポジウムの開催効果は、会員相互の継続的なCPD活動・相互研鑽はもとより、様々な業界で活躍されている多くの一般技術者の社会的なニーズを的確に捉えているものと考えます。また、技術士会の外に開かれた技術者教育・研修活動の主旨に沿った活動であり、加えて技術士会の産業界・教育界・一般市民に対しての知名度向上に多大に資するものと捉えております。したがって、本企画は技術士会会員だけを対象としたものではなく、非会員の方々の参加も可能な日本技術士会活動のオープンな公開シンポジウムとして開催できたものと考えております。

#### 2. シンポジウム開催内容

(1)テーマ :「日本経済再生のキーワード:国産技術を育て・活かすには、私たち技術者は何を考え、何にチャレンジして行くべきか」

(2)総合司会 吉川 博晴

(3)開会挨拶:(社)日本技術士会会長 清野 茂次

(4)講演:東京大学教授 坂村 健

(5)講演に引き続き、パネル討論を開催

パネルコーディネータ:安田 晃(情報工学部会長)

パネリスト:坂村 健, 犬伏 裕之, 石井 一夫, 平野 輝美

(6)場所:発明会館 東京都港区虎ノ門2-9-14(地下鉄銀座線虎ノ門,日比谷線神谷町徒歩10分)

(7)参加費:技術士会会員 3,000円,非会員 6,000円 学生 無料

#### 3. 坂村 健先生の特別講演

20年間に亘りトロンを全世界に普及させてきた坂村氏の講演は、参加者を魅了する大変興味深いものであった。全てお伝えできないのが残念であるが、その中より、今回のテーマである「日本経済再生」についてのキーワードをいくつか紹介したい。

- ・技術開発もさることながら、技術を一般に普及させる活動も同様に重要である。
- ・研究開発においては「独創性」を活かす環境作りが求められる。
- ・若者は失敗を恐れず信念を以ってやり遂げよ。

- ・謙虚に反省する気持ちを忘れてはならない。
- ・私利私欲を捨て、「この国をもっと良くしよう」という純粋な気持ちで臨んで欲しい。
- ・アジアに目を向け、技術で貢献すると共にリーダーシップを発揮してほしい。
- ・多分野の技術者集団である技術士会の特性を活かし、アジアでの更なる活動を検討してみてもどうか？

これらの他にも貴重な提言を頂き、「明日からの活力の源」となるような素晴らしい講演であった。

#### 4. パネリスト討論

パネルコーディネータ：安田 晃 [技術士 (情報工学, 電気電子, 総合技術監理：情報工学部会長)]

パネリスト：坂村 健 [東京大学教授]

犬伏 裕之 [技術士 (情報工学)]

石井 一夫 [技術士 (生物工学)]

平野 輝美 [技術士 (化学)]

パネル討論では、「目標を見つけ、実現するには何をすればよいか」について討論がなされた。

##### ①目標 (テーマ) を見つけるには？

石井氏：いろいろな変化の中で、多くの人に巡り会い打ち込めるテーマに出会った。

平野氏：独立系技術士なので経済的な理由でテーマを絞り込めないのが現状だが、多様性を持たせながら柔軟に挑戦していく。

坂村氏：自分で面白いと思ったことからテーマを見つかる。

##### ②実現するには何をすればよいか？

犬伏氏：子供の頃からの夢を実現すべく、ビジネススクールにて事業計画を策定し、認められた。

坂村氏：本質を掴みながら論理的に物事を考えることが重要で、矛盾があってはならない。

また、失敗を謙虚に反省し、常に見直かけることが実現へむけての第一歩である。

最後にまとめとして、安田氏が「今回のシンポジウムを新しい目標を掴むきっかけにしてほしい」と締めくくった。

#### 5. アンケートからの意見

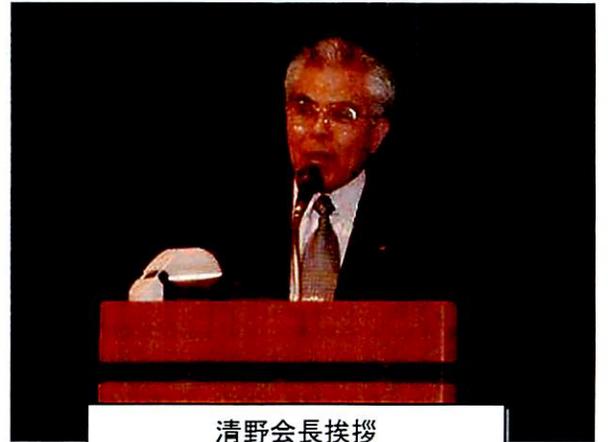
坂村 健先生の当日の講演及びパネルディスカッションでの様々な御意見は、歯に衣を着せぬ話し方で参加者全員の関心を大いにとらせ、参加者のアンケートからは、「技術者としてのこれからの業務や活動の取り組みにあたって大変勇気づけられた」との意見が多かった。また、次回を期待する声も多く、この期待に応えるべく、次回シンポジウムの企画も検討していきたい。

(松浦 勝博, 小松 秀次 記)

シンポジウム写真集



発明会館入口



清野会長挨拶



坂村先生特別講演



パネル討論



パネル討論



安田晃情報工学部会長挨拶



時合健生青年技術士懇談会

## 青年技術士懇談会委員・委員補佐・協力員並びに活動グループの紹介

### 1. 第22A・22B期の委員・委員補佐（技術士補）並びに協力員

技術士の委員と技術士補・修習技術者の委員補佐で会業務を分担しております。また、会規約の制約を受けなく特定グループ活動への参加・助言を行う協力員も参加し活動しています。

#### 【委員長・副委員長・委員】－13名

委員長：時合健生（化学）

副委員長：小松秀次（建設）、野村貢（総合技術・建設）

松浦勝博（総合技術・情報・電気／電子）

委員：秋好忍（機械）、笠井睦（環境・建設）、木下英也（経営）、久保康弘（生物）、桜井裕一（建設）、佐藤嘉憲（応用理学）、寺西由夫（情報）、戸谷次延（電気・電子）、平野輝美（化学）

#### 【委員補佐；技術士補】－15名

新井靖典（建設）、近江麻衣子（環境）、井上譲（建設）、掛川昌俊（機械・衛生）、斎藤稔（機械）、佐々木政幸（建設）、佐々木るみゑ（生物）、佐藤大樹（環境）、園家研一郎（航空・宇宙）、田村裕美（建設）、原田篤史（生物）、前田香奈（生物）、前田正吾（環境）、益子理（環境）、山田英樹（建設）

#### 【協力員】－6名

石井聡（電気・電子）／規約改訂G、伊藤英忠（建設）／国際G、北尾由之（情報工学）／規約改訂G、正司康雅（機械）／国際G、黒澤之（建設）／修習G、村田雅尚（電気・電子）／出版G、

### 2. スタッフの新委員の業務分担

当会は、各委員が月例会活動を担当する中で、下記委員会・グループに役割を分担し、会員も含め非会員を対象とした非会員向けの多様な活動を実施しています。

#### 【主な対外活動グループ（○：責任者）、（\*：委員・委員補佐以外の協力者）】

##### ・国際交流グループ（7名）

当会若手技術士や修習技術者とAPEC若手技術者との相互交流活動企画の作成・人事交流プログラム作成並びに人材交流業務を関係委員会や技術士会事務局のサポートを得て実施しています。

○山田英樹、掛川昌俊、桜井裕一、田村裕美、戸谷次延、前田香奈、  
（\*）伊藤英忠

##### ・出版企画グループ（9名）

当会の活動報告のレビュー（日本語と英語版）や年鑑の編集・作成並びに一般書（例えば、技術士関連の資格本やキャリアアップ本の執筆と一般出版など）を修習技術者も含め、活発に作成・出版しています。

○松浦勝博・秋好忍・掛川昌俊・佐藤嘉憲・時合健生・戸谷次延・平野輝美・  
（\*）村田雅尚

##### ・支部交流グループ兼支部連絡窓口（6名）

北海道、東北、北陸、中部、関西、中・四国、九州の各支部の若手技術者・修習技術者との合同例会・合同特別企画開催並びに行事連絡等をスムーズ且つ活

発に実施しています。

○桜井裕一・新井靖典・久保康弘・戸谷次延・佐藤大樹・山田英樹

・**修習技術者支援業務グループ（担当委員＋委員補佐：19名）**

修習技術者に最も近い年齢・業務を経験している当会委員・委員補佐を中心として、修習技術者・技術士補を対象とした修習セミナーを当会単独並びに修習技術者支援実行委員会等と共催で実施しています。

○佐藤嘉憲・笠井睦・久保康弘・野村貢・新井靖典（建設）、近江麻衣子（環境）、井上譲（建設）、掛川昌俊（機械・衛生）、斎藤稔（機械）、佐々木政幸（建設）、佐々木るみゑ（生物）、佐藤大樹（環境）、園家研一郎（航空・宇宙）、田村裕美（建設）、原田篤史（生物工学）、前田香奈（生物）、前田正吾（環境）、益子理（環境）、山田英樹（建設）

・**特別シンポジウム実行委員会（担当副委員長＋他全スタッフ：28名）**

会員向けの月例会以外に非会員若手技術者を対象としたシンポジウムや見学会・講演会を企画開催致します。

○松浦勝博・小松秀次副委員長他全スタッフ

・**広報・インターネット関連グループ（7名）**

会業務の案内・活動事例紹介・メールニュース等の広報活動を行っています。

○平野輝美・秋好忍・掛川昌俊・松浦勝博・佐々木政幸・柳澤剛

・**技術士試験業務グループ（5名）**

技術士会の協力要請により、技術士第一次・二次試験監督員並びに受験願書審査業務員の募集業務とスムーズな実施を技術士会と連携して実施しています。

○木下英也、井上譲・小松秀次・斎藤稔・桜井裕一

## 【内務グループ】

・**委員長（1名）**

会業務の総括を担当しています。

時合健生

・**副委員長（3名）**

会業務の企画立案調整・技術士会との連絡調整・会特別業務を担当しています。

小松秀次・野村貢・松浦勝博

・**規約改定・組織検討グループ（6名）**

会運営の効率化及び透明化並びに中長期的な若手技術者の増大を想定し、会規約の改定並びに支部体制も意識した組織の検討や技術士会との調整・折衝を行います。

○時合健生・小松秀次・野村貢・松浦勝博・(\*)石井聡・(\*)北尾由之

・**会計グループ（3名）**

会業務の出納管理を担当しています。

○笠井睦、原田篤史、野村貢

・**出席管理（4名）**

月例会や特別シンポジウムなどの出席把握並びにCPD申請に対応した出席管理・名簿管理を行っています。

○佐藤大樹・秋好忍・木下英也・原田篤史

※各サブグループの活動報告は、次項以降のレポートを参照願います。

サブグループ名	国際交流グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○ 山田、戸谷、桜井、田村、掛川、佐々木（る）、前田（香） 協力員 伊藤
グループの目的・活動の趣旨	APEC を中心とした海外若手技術者と交流する場を持ち、知識・人脈を広げることを目的とする。相互交流を行うための企画・準備を行い、海外技術者との窓口を形成する
今期の活動内容	<p>●活動内容</p> <p>1. CAFEO-21 への参加 山田英樹、桜井裕一、前田香奈の3名が2003年10月にインドネシア ジョグジャカルタで開催された CAFEO-21 に参加した。参加各国の若手技術者会議である YEAFEO(Young Engineers of The ASEAN Federation of Engineering Organization)に出席し、インドネシアをはじめ各国と交流を持つことが出来た。</p> <p>2. 香港、澳門、日本の各国技術者での合同中国視察への参加 伊藤英忠が、2003年10月に香港、澳門技術者と共に三峡ダム建設現場を中心とした合同中国視察に参加した。約1週間行動を共にしたことで、各国参加者と交流が深まった。</p> <p>2. 海外活動の関係事務 海外渡航にかかる航空券手配、参加手続き、損害保険契約、必要経費の算出を行い、帰国後の精算を行った。また海外派遣中の緊急時連絡体制を取り決めた。</p> <p>3. 海外情報の収集 海外派遣に備えて海外在留経験者を招いた事前説明会を開催し、インドネシアの国家事情等を講義していただいた。</p> <p>4. 資料作成・報告会の実施 海外派遣の成果報告資料を作成し、青技懇委員・委員補佐を対象に報告会を開催した。また2004年3月例会で講演を行った。</p> <p>5. 広報活動 支部交流グループと連携し、国際交流グループの活動を他支部へアピールした。また海外派遣活動については、詳細報告を月刊技術士に掲載予定。</p>
b b 活動成果	YEAFEO 参加各国及び合同中国視察で人的交流を行ったことで、各国技術士会相当組織及び参加者と継続的に交流する窓口を形成することができた。また、海外交流のノウハウが蓄積された。
今後の予定・展開	<p>・2004年度にミャンマーで開催される CAFEO-22 への参加予算は要求している。2004年5月末現在、CAFEO-22 の案内は届いていないが、参加に向けて取り組みを続ける。2003年度に初参加したことで、会議の内容を把握しているため今後の具体的な交流方針を決めていく。</p> <p>・香港の若手技術者から、2004年度は上海の視察会を企画中であるとの連絡をもらっている。青技懇から派遣して視察会に参加するか全額個人負担で参加者を募るかを決めていく。</p>
その他	国際交流を行う上で、海外派遣者は広く他国とコミュニケーションがとれる積極的な人材を派遣する必要がある(英会話力の問題ではない)。初回である2003年度は青技懇の委員・委員補佐の中から希望者を募ったが、開催期間に海外へ行ける条件を満たせる人自体が少ないため、派遣者選定は問題が多い。

サブグループ名	支部交流グループ(兼支部連絡窓口)
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○桜井、戸谷、久保、山田、佐藤（大）
グループの目的・活動の趣旨	北海道、東北、北陸、中部、関西、中・四国、九州の各地区の若手技術者・修習技術者との合同例会・合同特別企画開催並びに行事連絡等をスムーズ且つ活発に実施することを目的としたグループである。
今期の活動内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 支部交流活動の拡大：4支部から7支部へ 本部から多彩な情報を各支部へ発信し、賛同者の拡大を図る。</li> <li>2. 持続的な支部交流への定着 支部交流会議を定期的（年1回）に開催し、情報交換を行う。</li> <li>3. 合同企画の立案実施 若手技術士、修習技術者のスキルアップを目的とした本部・支部協賛の合同企画を立案し、実施する。</li> <li>4. 他グループへの活動の展開 他グループの活動内容を各支部に情報開示し、グループ活動の活性化を図る。</li> <li>5. 人材ネットワークの構築 各支部との交流を深めるとともに、若手技術士の人材ネットワークを構築する。</li> </ol>
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2、3回支部交流会の実施によって7地区の代表者同士の情報交換を行った。</li> <li>2. 支部交流会議の開催 <ol style="list-style-type: none"> <li>①第2回支部交流会（2003年10月31日：大阪） 参加者：北海道（1名）、東北（1名）、近畿（12名）、関東（4名）</li> <li>②第3回支部交流会（2004年5月15日：東京） 参加者：北海道（2名）、東北（1名）、北陸（1名）、中部（3名）、近畿（2名）、中・四国（1名）、九州（2名）、関東（3名）</li> </ol> </li> <li>3. 平成16年度技術士全国大会（in北海道）に向けて北海道の青年技術士協議会が中心となり全国各地が協賛する企画検討が進行している。</li> <li>4. 支部交流会を通じて当会の活動を紹介するとともに積極的な参加を要請した結果、特別公開シンポジウムへ各地区より多数の参加者があった。（12名）</li> <li>5. 全国の各地区で活動している組織を調査し、各会の連絡窓口を確認した。</li> <li>6. その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>①ホームページへの連載 当会HPに各会のHPをリンクさせ、情報の共有化を図った。</li> <li>②他支部活動への参加 2004年11月21日北海道青年技術士協議会秋期研修会へ参加</li> </ol> </li> </ol>
今後の予定・展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成16年度全国大会における合同企画並びに支部交流会実施 北海道青年技術士協議会が開催する分科会を活用し、全国的な支部交流活動の推進につなげる。</li> <li>2. 継続的な各会への情報発信 HPへの各WGの積極的な掲載による各会への情報開示</li> <li>3. 各会代表者による情報交換手法の検討（MLなど）</li> </ol>
その他	今期の活動の成果は、各地区の代表者が一同に集まって情報交換を行ったということが「最大の成果」であると考えている。したがって、次期以降も継続的な支部交流を通じて全国的な青年技術士ネットワークの構築を実現して頂きたい。

サブグループ活動報告

サブグループ名	第2回特別公開シンポジウム実行委員会
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○松浦勝博, 小松秀次, 時合健生, 野村貢, 桜井裕一, 笠井睦, 佐藤嘉憲, 平野輝美, 木下英也, 久保康弘, 寺西由夫, 秋好忍, 戸谷次延, 掛川昌俊, 園家研一郎, 黒澤之, 柳沢剛, 原田篤史, 佐藤大樹, 益子理, 佐々木政幸, 井上讓, 近江麻衣子, 山田英樹, 前田香奈, 田村裕美, 齋藤稔, 前田正吾, 新井靖典, 佐々木るみえ
グループの目的・活動の趣旨	5/15 国産 OS-TRON の開発やユビキタスコンピューティングの普及で有名な坂村健氏を招き, 「日本経済再生のキーワード: 国産技術を育て, 活かすには, 私たち技術者は何を考え, 何にチャレンジして行くべきか」をテーマにしたシンポジウムを実施した。 ※今回は情報工学部会の協賛を得て, 部会との交流促進を図った。
今期の活動内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 2003/10 講演者調整 坂村健氏東京大学教授との講演交渉</li> <li>(2) 2003/10 実行委員会立ち上げ。シンポジウム実行のため, 7つのワーキンググループを青年技術士懇談会内に設けた。</li> <li>(3) 2003/11 実施計画会議</li> <li>(4) 2003/12 会場確保 (発明会館)</li> <li>(5) 2004/01 技術士会事務局との協議, シンポジウム内容等についての説明を行い, 各種開催費用の協力を得た。</li> <li>(6) 2004/03 実行委員会全体会議 総合司会, パネリスト, パネルコーディネータ等の出演者決定。</li> <li>(7) 2004/04 運営会議</li> <li>(8) 2004/05 運営会議, パネリストミーティング</li> <li>(9) 2004/05/15 シンポジウム開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演者 坂村 健</li> <li>・ 挨拶 清野 茂次 (日本技術士会会長)</li> <li>・ 総合司会 吉川 博晴</li> <li>・ パネル討論司会 安田 晃</li> <li>・ パネリスト 坂村 健, 犬伏 裕之, 石井 一夫, 平野 輝美</li> </ul> </li> </ol> <p>・総参加者数 195 名</p>
活動成果	<p>テーマの関係もあると思われるが, 今回のシンポジウムは若手技術者ばかりでなく, ベテラン技術者の参加も多くあった。また, 事後アンケート結果では講演内容, パネル討論ともに非常に高い評価を得た。また, 次回開催への期待も大きかった。</p> <p>昨年に引き続き2回目のイベント企画となったが, 今回は情報工学部会とタイアップして運営を行った。参加者を集めるのに苦慮したが, スタッフ一同の協力により当日は200名近い参加者があった。</p> <p>技術士会事務局をはじめとして, 各委員会, 理事からも一定の評価を得ることができ, 青年技術士懇談会としての大きな活動成果の一つとなった。</p>
今後の予定・展開	<p>月刊PE9月号にシンポジウム紹介記事を掲載予定。また青技懇ホームページに概要を掲載予定。</p> <p>今回は情報工学部会の協賛を得たが, 部会や他委員会とタイアップすることは, 技術士会内での横の繋がりが強化されることになるため, 今後も積極的な働きかけを行っていく予定である。</p> <p>今回のシンポジウムは, 結果的にCPD中央講座の開催日と重なることとなってしまった。今後は技術士会内各イベントとの十分な調整が必要であろう。</p>
その他	特になし。

サブグループ名	広報・インターネット関連グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	平野○、秋好、桜井、松浦、原田、佐々木(政)、寺西、掛川
グループの目的・活動の趣旨	会業務の案内、活動事例紹介、メールニュース運用等の広報活動を行うことにより、会員の交流を深めることを目的とする。
今期の活動内容	<p>1. インターネットホームページ（青技懇サイト）の運営</p> <p>1-1 サーバーの変更 従来のメーリングリストサーバーについて、青技懇サイト立ち上げに伴い同じサーバーを利用するものとして、全ての運用を移行した。</p> <p>1-2 青技懇サイトへのリンク設定 日本技術士会サイトから青技懇サイトへのリンクについて、青技懇サイト立ち上げに伴い直接リンクに変更した。（転送用のページを省略した）</p> <p>1-3 青技懇サイトの運用 新規に青技懇サイトを立ち上げ、運用を開始した（佐々木様の多大な貢献に感謝）</p> <p>2. 管理用メーリングリストの運営 青年技術士懇談会委員における連絡のためのメーリングリストを運用し、活動のサポートに利用した。効率的な活動において効果的に利用できたと考えている。</p> <p>3. ニュースリストの運営 <b>青技懇の各種行事等の案内用としてニュースリストを運用した。各種の案内に効果的に利用することが出来た（秋好様、寺西様、掛川様の多大な貢献に感謝）</b></p> <p>4. グループメンバーによるミーティング グループ単独でのミーティング等について年度初期において実施したのみに留まった。</p>
活動成果	<p>1. 青技懇サイトの定期的なアップデート実施（定期） 初期のサイト構築とタイムリーなサイト更新等を行うことが出来た。効果的な情報伝達の手法として有効と思われる。</p> <p>2. 管理メーリングリストの運営 委員等における連絡手段として効果的に利用することができたと考えており、大きな成果である。</p> <p>3. ニュースリストの配信 近年ではインターネットを利用した情報提供は必須と思う。効果的な情報提供の一つの手段として利用できたと考えている。</p> <p>4. ミーティング 本年度活動初期における方針等討論において有効に活用した。</p>
今後の予定・展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、インターネットにおけるサイト、メーリングリスト、ニュースリストの効果的な利用を図る。</li> <li>・特別シンポジウム案内において設定した日本技術士会同報メールシステムの効果的な利用を検討する。</li> </ul>
その他	青技懇サイト修正、メーリングリスト、ニュースリスト等の運用負荷平滑化および継続性確保のため複数の担当者を割り当てることを考慮する。

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	出版企画ワーキンググループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	松浦○，時合，秋好，戸谷，佐藤（嘉），平野，寺西，掛川
グループの目的・活動の趣旨	多彩な専門技術者集団である青年技術士懇談会の特徴を活かし，一般書籍の出版や専門雑誌への論文掲載などをおして，若手技術士から社会への科学技術普及活動を推進する。
今期の活動内容	<p>上記趣旨のもと，青年技術士懇談会委員及び協力員をワーキングメンバーとして，2002年12月に本ワーキンググループを発足した。</p> <p>本ワーキンググループの主な活動テーマを下記に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青年技術士懇談会年鑑制作 昨年引き続き，1年間の活動内容及び成果をまとめた年鑑を制作し，2004年6月の総会時，会員及び関連組織に配布する。</li> <li>2. 専門誌への連載 技術系の専門雑誌へ，青年技術士懇談会の会員が中心となって連載を行う企画を立案する。連載テーマとしては専門技術の解説だけではなく，若手技術者を中心に広くメッセージを発信できる内容とする。</li> <li>3. 一般書籍の出版 青年技術士懇談会の特徴を活かし，幅広い読者層を対象とした，技術関連の啓蒙や若手技術者のためのキャリアアップなどをテーマとした書籍の出版を目指して，企画を進める予定である。</li> </ol>
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年度は様々な理由により，専門誌への連載，一般書籍の出版に関する活動を行うことはほとんどできなかった。</li> <li>2. 昨年引き続き，青年技術懇談会としての活動年鑑の制作に取り組むことができた。</li> </ol>
今後の予定・展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門誌への連載を目標にした企画作成及び執筆体制の整備</li> <li>2. 一般書籍出版を目標にした企画作成</li> </ol>
その他	専門誌の連載や一般書籍出版については，青年技術士懇談会の多くの会員のみさまに是非協力いただきたい。

サブグループ名	技術士試験業務グループ
グループメンバー (○印:グループリーダー)	○ 木下英也、桜井裕一、小松秀次、井上讓、斉藤稔
グループの目的・活動の趣旨	日本技術士会の協力要請により、技術士 1 次・2 次試験監督ならびに 受験願書審査員の募集業務を担当する。 当グループの役割は、日本技術士会の試験業務の支援活動である。
活動報告 (試験実施状況報告)	<p>1. 第 1 次試験の本部員・主任監督員の募集業務</p> <p>1) 試験実施日と集約人員記録</p> <p>1次試験 実施日:平成 15 年 10 月 13 日 集約人員:(本部員)11 名、(主任監督員数)231 名</p> <p>2次試験(総合技術監理) 実施日:平成 15 年 08 月 02 日 集約人員:(本部員)2 名、(主任監督員数)5 名</p> <p>2次試験(その他技術部門) 実施日:平成 15 年 08 月 03 日 集約人員:(本部員)2 名、(主任監督員数)19 名</p> <p>2) 本部員・主任監督員募集 不足による青年技術士懇談会への協力要請は特に無し。</p> <p>2.実施時の記録&amp;報告(F/B) ～主任監督:10/12(日)18:00～13(火)16:00 (東京電機大) 一次試験の基礎問題に誤りが数箇所指摘され、終了10分前に全会場に展開することになり多少の混乱が発生。</p>
試験監督員募集の現状 (技術士会試験担当より)	<p>①募集責任:技術士会</p> <p>②監督員依頼:最新の会員データでランダム抽出 (年齢、地域等考慮) * 年齢は65未満で、地域は東京都と神奈川、千葉、埼玉の東京に近い地域在住で絞り、その中から更にランダムに絞っている。</p> <p>→近年会員数もかなり増えているので、試験監督員は早期に決定する傾向。</p>
活動形態	<p>1.技術士会試験担当者とグループリーダーとの連携 →情報展開&amp;報告・連絡・相談(Eメール活用)</p> <p>2.本部員・主任監督員&amp;審査業務の募集&amp;集約(Eメール活用)</p> <p>① グループリーダー→青年技術士懇談会へ募集依頼 ② 集約状況の把握 ③ 技術士会へ状況報告(グループリーダー)</p>
その他(今後の予定)	<p>平成 16 年度 技術士試験監督</p> <p>2次試験(総合技術監理) 実施日:平成 16 年 08 月 07 日(土)</p> <p>2次試験(その他技術部門) 実施日:平成 16 年 08 月 08 日(日)</p> <p>1 次試験(基礎、適性、共通、専門) 実施日:平成 16 年 10 月 11 日(月・祭日)</p>

青年技術士懇談会 活動報告

サブグループ名	修習技術者支援活動
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○佐藤嘉憲、笠井睦、久保康弘、野村貢、新井靖典、井上謙、掛川昌俊、齋藤稔、佐々木政幸、佐々木るみゑ、佐藤大樹、園家研一郎、田村裕美、原田篤史、前田香奈、前田正吾、益子理、柳沢剛、山田英樹、近江麻衣子
グループの目的・活動の趣旨	技術士補、一次試験合格者を含む広義の修習技術者の修習活動を支援する活動を展開する。
今期の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修習技術者の実態調査</li> <li>・修習技術者支援実行委員会（修習委員会）の活動への協力</li> <li>・他部会や委員会への協力</li> <li>・技術士と修習技術者の交流促進</li> <li>・修習技術者に対する多角的支援</li> </ul>
活動成果	<p>(1)2003年11月22日～11月23日：第16回修習技術者研修セミナーの企画、運営。当グループの最大イベントであり、修習委員会との共催である。今回は初めて泊まり込みでの懇親会を試行した。</p> <p>(2)2004年2月28日：一次試験合格者歓迎会の運営支援。パネリスト4名とコーディネーター一名が参加した。また、ロビー展示を行い、ポスターや資料などによって活動内容を説明、宣伝した。</p> <p>(3)2004年2月28日：アンケート調査の企画、実行（修習委員会との連名）。一次試験合格者歓迎会の場でアンケートを回収、解析することにより、支援活動の方策を検討する一助としている。</p> <p>(4)2004年4月24日：修習技術者のための例会。委員補佐によって企画、運営される唯一の例会。今回は初めて、「指導技術者探しの相談」を行った。</p> <p>(5)毎月：修習委員会の月例会に参加し、交流、意見交換を行った。</p>
今後の予定・展開	今後も、修習技術者支援実行委員会との密接な協力関係を築くとともに、増加し、年齢層が変化してきている修習技術者の要望にあらゆる窓口として、技術士会と修習技術者を幅広くつなぐ活動を展開していく。
その他	なし。

青年技術士懇談会 活動報告

サブグループ名	出席管理グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○佐藤大樹、秋好忍、木下英也、原田篤史
グループの目的・活動の趣旨	本グループは以下を目的とする ① 青年技術士懇談会活性化に向けての例会の運営円滑化支援業務 ② 会員相互間の交流促進 ③ CPD エビデンス管理
今期の活動内容	① 22B 期用の例会出席簿フォーマット作成 (2003 年 6 月)。 ② 青年技術士懇談会例会参加者の個人情報管理。( (1) 参加記録、 (2) 部門、(3) 所属、(4) メールアドレス) ③ 各例会において参加者管理業務 (受付、記録、名簿作成およびその配布)、CPD 管理) を遂行 (2003 年 7 月～2004 年 4 月例会)。(所属などの名簿記載項目の変更、及び新規合格者等の新規参加者については随時フォーマット更新。) ④ 例会活動の具体的内容
活動成果	① 例会活動支援により例会の円滑な運営および参加者間の交流促進に貢献した。 ② 例会参加実績の管理により CPD エビデンス管理を遂行した。
今後の予定・展開	今後も、引き続き同様の活動を続ける。
その他	特になし。

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	組織・規約検討グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○時合健生、小松秀次、野村貢、松勝博
グループの目的・活動の趣旨	<p>中長期的に若手技術士及び修習技術者が増加していく中で、</p> <p>(1)今後、ボリュームゾーンとなる若手技術者が積極的且つポテンシャルを発揮できる活動の場～外に開かれた多様な活動を発揮できる組織・体制を、</p> <p>(2)政策委員会や事務局・他関連技術士会部署と検討する。</p>
今期の活動内容	<p><u>(1)2003年11月23日：組織検討の実施</u></p> <p>→ 組織検討委員会メンバーと会合を持ち今後の組織についてグループ内で検討した。</p> <p>①期限付きの解散がない特別実行委員会型への移行が現実的であり、その方向性で組織を検討することにした。</p> <p>②組織検討は、理事会承認事項並びに手続に最低半年は必要であり、担当部署を通じ検討を進めていく。</p> <p><u>(2)2003年12月20日中間報告会</u></p> <p>→ 上記検討案を説明し承認された。</p> <p><u>(3)2004年4月16日：政策委員会での説明（小松・野村副委員長）</u></p> <p>→ 組織検討小委員会で、当会の活動内容の状況説明を実施した。</p> <p>①全国2200人を束ねる活動ではなく、支部の独自性を勘案すること。</p> <p>②部門横断型の特徴を活かした活動にすること。</p> <p>③政策委員会（組織検討小委員会）に毎月参加となった。</p> <p><u>(2)2004年3月：ヴィジョン検討委員会への参加（野村副委員長）</u></p> <p>→ 事務局の要請があり、若手技術者を代表し当会から委員を出した。3ヶ月間で、今後のヴィジョンを取り纏め報告書を作成し理事会にて承認された。</p>
活動成果	<p>(1)政策委員会に参加し意見表明する端緒を作った。同時に当会の考へを表明し理解された。</p> <p>(2)支部にも組織検討状況を説明し課題提案ができた。(04/05/15)</p> <p>(3)ヴィジョンを取り纏めを通じ当会の意見を反映し、その方針に沿った『組織検討』を実施することにした。</p>
今後の予定・展開	<p>支部意見も反映した『新たな組織検討案』を関連部署のサポートを得て、政策委員会にH16年度に提案する。</p>
その他	<p>特になし。</p>

## 青年技術士懇談会活動に参加して

佐々木るみゑ  
技術士補（生物工学部門）

「青年技術士懇談会の委員補佐やってみませんか？」と誘われ一度は断ったものの、同じ部会の方に再度誘われました。「やってみようかな。」と、持ち前の好奇心が働いた半面「自分の力不足でやり遂げられないのでは？」との思いもあり、決められないまま時間が過ぎました。しかし、最終的には、仕事に余裕があり時間がとれることと、研究補助というルーチンワークの仕事とは違う社会活動をしてみたいという理由で引き受けました。

実際参加してみますと、各種グループに分かれているので、組織として多方面で活動している部会であると感じました。更に、委員補佐のみで行う例会もあるので、補佐業務だけでなく主体となって活動する場があることがわかりました。

今期、私が参加し、印象的だった活動は、先程もあげました委員補佐が主体となる3月例会です。2004年は試験の発表が遅くなったのに合わせて、4月開催の3月例会という形になりました。あくまで参加する一次合格者の方に向けた例会であるというのを考慮しての決定でしたので、やむを得ないのですが……。さらに委員補佐は何名かいますが、仕事の片手間に行くため集まれる機会は少なく、ほぼメールのみでの打ち合わせで執り行われました。そんな関係で、例会の執行では大変な面もあり、また反省点も数多くありましたが、出席者の例会後のアンケートには、おおむね好評の様子が書かれていましたので、ほっとしました。今回出た反省点を来年に生かし、より良い例会の開催となればと思います。

また、今回この3月例会と合わせて行われたのが、指導技術士相談会です。私は急遽、ピンチヒッターで相談員を勤めました。一次合格者の方達の新鮮な雰囲気と、やはり相談会に出席していることもあって不安な心情が伺えましたが、僅かながらの自分の経験やアドバイスが参考になれば、という思いで勤めました。合格者の方の中には、勤務経験の長い方もいらっしゃり、逆にこちらが教わる事も多く、良い経験になるものでした。

第2回シンポジウムも私にとって印象深く、刺激のある講演会となりました。去年の江崎玲於奈先生に引き続き、今年も世界的に活躍されている坂村健先生の講演会とパネルディスカッションです。恥ずかしながら、トロン作成者が日本人であることは知っていましたが、直接名前を存じ上げておりませんでした。しかし、今回の講演は、坂村先生の著者本をむさぼり読みたい衝動にかられるほど、とても魅力的なもの。先生の個性とカリスマ性に伴い、優れた技術がさらに大きな広がりをもせたのではないかと感じる講演でした。当日は先生の秘書？役という大きな仕事を頂きましたが、講演会で飲み物を用意し忘れていたことから、「水もない、華もない、いかにも理系の講演会だね」の一言に苦笑しつつ、でもそんな正直でストレートな発言に親近感が沸きました。

一年間の活動を通して、青年技術士懇談会は、様々な分野のみなさんが集まり盛り上げていることを、まさに実感しました。私の活動は微々たるものでしたが、現在の私の勤務や日常生活では経験出来ない活動ができ、分野を超えた交流もできる、そんな青年技術士懇談会の活動でした。ありがとうございました。

## 「幽霊」委員補佐

柳澤 剛

技術士補（農業部門、応用理学部門）

青年技術士懇談会(以下、青技懇と略す)と初めての接点は平成14年の2月例会にたまたま出席したことでした。そのころ、自分のやる気を奮い立たせるために、新しい刺激を求めてより広い活動範囲を獲得するために、色々な行事や会合へ参加する中の一つが青技懇の例会でした。他の技術士会の会合とは違い若い方々が多く参加されており、また、学生も参加されていて、活力のある会合だなと感じました(当時私は学生でした)。それから時間さえ合えば青技懇の活動に参加するようになりました。

そんな中、平成15年6月から青技懇の委員補佐として青技懇名簿の片隅に名前を載せていただくようになりましたが、そもそも委員補佐をやってみないかと委員長から声を掛けていただいたのは、平成15年初頭だったと記憶しております。その時期私は就職(転職?)問題やら何やらで、プライベートな環境が大きく変わろうとしている渦の中におりました。もし就職が決まれば土日が休みの仕事ではないために殆ど青技懇の行事には参加できなくなることが分かっておりましたし、当時の私に委員補佐の仕事が務まるかどうかさえ分からない中でのことでした。もちろん即答はできませんでした。じっくり考えた末、就職後しばらくしてから、お引き受けすることにしたと記憶しております。「青技懇の活動はボランティアなんだからやれるときだけやればいいんだよ」という委員長からのやさしい言葉を真に受けての返答でした。

しかし、活動を始めてみるとやはり例会に参加できないことは大きなネックになることを実感しました。青技懇活動への時間は創るものであるということは分かっているつもりでしたが、正式に社会へ出てみて休みを取ることの難しさに直面したのです。学生の時、やれ実験だの、やれ測定だのと言ってもある程度の自由がききました。それが就職して組織に入ったらたちまち勤務日に休みを取ることが難しくなってしまう(土日休みの勤務ではないため)。大きな文字では書けないのですが、委員補佐になってからの例会出席率は委員補佐になる以前のそれと比して低くなっております(お恥ずかしい限りです)。

こんな私ですが、委員補佐としての活動を通して、とりわけ3月例会(修習技術者を対象とした例会)を終えて、得たことは大きいと感じております。それは、催しを成功させるためにはチームワークが大切であるということ。そして、事前の綿密な打ち合わせが重要だということ。自分の意見を適当な時期に適度に発信することが重要であるということ。各々がそれぞれ異なった場所でそれぞれ働きながらある一つの催しを企画し実施するためのコミュニケーション手段、すなわち電子メールでのやりとりの最低限念頭に置かなければならないこと、等々。そして忘れてはならないこと、周りのみんなとの助け合い。

これらは青技懇の委員補佐でなくては味わえないことでは決してありません。しかし、私にとってそれを経験する場が青技懇の委員補佐としての活動の中になりました。専門分野の技術的経験を積んで技術士となり、その専門分野を活かして社会貢献するための初歩の初歩、プロジェクトを創り動かし成功させる初歩の初歩、を学べたことは委員補佐となって活動した成果であると感じております。

最後に、例会にもほとんど出席できない「幽霊」委員補佐を暖かく(?)見守ってくださっている委員、委員補佐のみなさまに感謝したいと思います。ありがとうございます、そしてどうかこれからもよろしく願いいたします。

## 委員補佐活動を通じて

齋藤 稔  
技術士補（機械部門）

技術士会に限らずだが、種々の活動・企画に参加するに際し、主催する側と参加する側に別れる。

私が技術士一次試験に合格した後、機械部会を始め数種の部会・委員会等に参加させて頂いた。この参加とは、前述の「参加する側」での立場であったが、当時はせっかく一次試験に受かったのだから、技術士会を大いに活用し、日々の業務に活かそうと思っていた。

しかしながら、実際直接実務に活かせるような情報収集は困難で、やがてそれらに参加することは、少々アカデミックな雰囲気味わうものだけになってしまっていた。

その後数年間、全くとって良い程、技術士会のイベントには参加していなかったし、その必要性も感じていなかったが、職場が変わった事を機に、私の考えは一変した。

それまでは、仕事に関する情報や知識は、社内で十分に得られたし、それだけで仕事をこなす事が出来た。しかし新しい職場では情報はほとんど入って来ず、業務を遂行する上で、常に新しい情報・知識の必要性に迫られた。

私は、今までの自分の世界や考えが如何に狭いものだったかを痛感し、再度技術士会の必要性を認識した。

しかしながら、過去の経験から、一次試験合格当時と同じ方法を取っても、今の自分には有意義では無い。情報収集という観点から、私は各種のイベントに参加して得られる知識というのは、ごく限られた知識で、ましてやそれが実務に直結することなどめったにあるものではないと感じていた。

私が必要としたものは、もっと幅が広く継続的に得られる情報・知識・刺激等々であり、それはつまり、人脈・仲間であると思った。

仲間との話の中で得られる、自分以外の知識や考え方というのは多種多様であり、また双方向の情報交換が可能である。それはとても貴重で価値のあるものであり、単に講演会や講習会に出てもなかなか得られるものではないと思う。

しかしそういった関係を築き上げるのは大変だ。ちょっと名刺交換してしゃべった程度では人脈形成などとても出来るものではないと思うし、少なくとも私には無理だ。

そこで私は青年技術士懇談会に委員補佐として参加する事を決めた。

正直言って委員補佐といえども楽なものではなかった。しかし同じ委員補佐と協力し、また委員の方に手助けをしてもらいながら何かを成し遂げることによって、確固たる人脈が築けるきっかけになるのだと思う。

またそのようにして築いたものだからこそ、単に情報や知識の上だけの交流ではなく、日ごろの悩みを相談したり冗談を言って笑ったりという楽しみを得る事も出来る。

それらは私にとって、とても貴重な財産だと感じている。

最後に、青年技術士懇談会の委員補佐として活動してまだ1年足らずではあるが、私の取った選択は正しかったと確信している。今後も積極的に活動に参加し、更に皆との交流を深めて行ければと思う。

## 委員補佐2年目の活動

名前 山田 英樹  
技術士補（建設部門）

(本文)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

青年技術士懇談会の委員補佐となって早くも2年が過ぎました。主に例会が行われる神谷町までは職場から距離があることもあって、平日に行われる例会は今年もなかなか参加出来ませんでした。・・・。

今年度私が行った青技懇活動は、国際交流グループ（以下国際交流 G）を主として、他の委員・委員補佐の方と共に「定例会」、「指導技術士相談会」や「3月例会」の企画・運営を行いました。2年目なので月行事の流れが分かりスムーズに活動出来るかと思っていたのに、今年もバタバタと過ぎしまいました。

今年活動の中心は国際交流G活動でした。メインとなった活動は、青年技術士懇談会からインドネシア ジョグジャカルタにて開催されたCAFEO-21及び香港・澳門・日本3カ国の技術者が合同で行った中国視察へ初めて参加者を送ったことです。

私も海外派遣の一員として、インドネシアで開催されたCAFEO-21に参加する機会をいただき、委員の桜井裕一さん、委員補佐の前田香奈さんと共にアジア各国の技術者と交流を持つことが出来ました。海外には何度か旅行した経験がありますが、海外の若手技術者と直接意見交換したのは初めての経験でした。現地にてまずショックを受けたのは他国の若手技術者と呼ばれる参加者がみんな若いこと！私は当時30歳でしたが他国の参加者は多くが20歳から25歳、中心は22～23歳の大学生や大学院生。まるで場違いなところに来てしまった雰囲気を感じました。私たちは技術士第一次試験に合格したことで青年技術士懇談会活動することになりましたが、私も含め委員補佐は大半が20代後半から30代の社会人です。青年技術士懇談会自体が45歳までを若手技術者としていますが、他国は事情が違う様子で若手は35歳以下というところも数カ国ある始末です。

しかし、年は多少離れていても他国の事情、感情を直接聞いたことは個人的にも非常に大きな経験でした。参加者のなかには日本に勉強に行きたいという人も多くおり、今回日本が参加したということはとても喜んでもらっていました。

実際にインドネシアへ行くまでには、昨年の6月に国際交流WGに所属することから始まり、メンバー集めや派遣者探し、航空券の手配や経費の計算、現地派遣中の緊急連絡体制作りといろいろな事務がありましたが、委員・委員補佐の協力のもと無事に現地へ行き、帰ってこられたことは大きな喜びでした。

国際交流は、相手と実際に会える機会を何度も持つことは非常に難しいため、今後交流をどのように継続していくかが非常に大事なことです。ともかく海外の若手技術者と積極的に交流していくために、こちらも若い修習技術者を積極的に増やしていけるように、国際交流活動以外でも「ビア・パーティー」や「忘年会」の節目行事を中心に魅力的な例会を増やして勧誘していかなければならないと思います。

また、私も毎月毎月ためになる例会が開催されているので、今後より多くの例会に参加するようしていきたいと思っています。

## 自己紹介

佐藤大樹  
技術士補（環境部門）

自己紹介がてら研究について紹介します。

屋外環境のうち特に熱的な快適性・熱の流れなどについて研究しています。

研究を始めた頃は、ヒートアイランド現象を完全に解消するぞ、と思っていました。  
しかし、それは無鉄砲でした。

今は、夏の都市のヒートアイランド現象の緩和に向けて、じわじわと迫っているつもりです。

最近考えていることは、この暑さの犯人は誰か？ということです。

真夏に街中を歩いていてすごく暑いときは、私を取り囲む環境が暑熱化しています。

その暑い環境を作り出し、私に熱い思いをさせているのは、沢山の熱源のうちの何か。

主犯が誰で、誰が共犯かを突き止めたいと思っています。

今は、これら全ての熱源からの熱量の大きさを、数値解析ではじき出すことに専心しています。

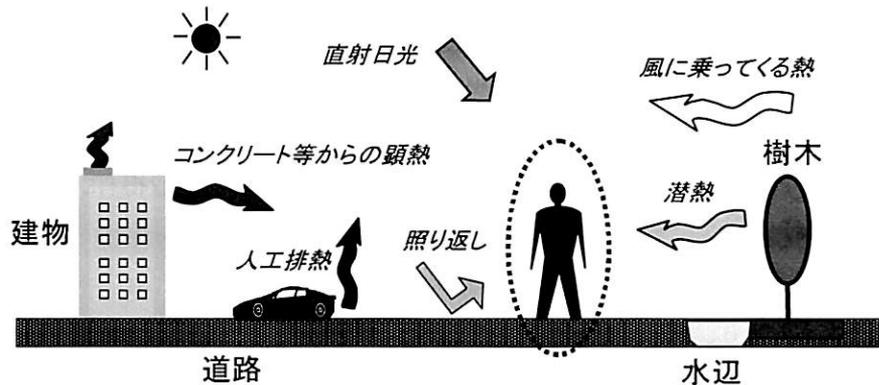
今の東京の夏が暑い、と思った方、

夕涼みができる街を取り戻したい、と思った方、

夏のアスファルトやマンホールの蓋からモワッと立ちのぼる熱気を無くして、

ビーチサンダルや裸足で駆け回ることでできる街を取り戻したい、と思った方、

は同志です。



<委員>

\*\*\*\*\*

氏名: 時合 健生(ときあい たけお)

技術部門: 化学(セラミックス及び無機化学薬品/潤滑油)

役割: 委員長、組織検討のリーダー、年鑑(広報紙)作成と支部のメンバー

勤務先等: 出光興産 潤滑油部 営研究所設備油グループ

〒299-0107 千葉県市原市姉崎海岸24-4

TEL 0436(61)2501, FAX0436(61)2017

takeo.tokiai@si.idemitsu.co.jp

(自宅) 〒227-0111 千葉県市川市妙典2-14-28 ライフステージ妙典404号

Tel(and Fax) 047-356-8996, takeotokiai@nifty.com



- 専門技術: (1)セラミックス製造・評価分析に関する調査及び技術指導  
(2)熱電半導体の材料開発並びに商品開発に関するコンサルタント業務  
(3)潤滑油: カーエアコン、空調機器用の潤滑油の開発。

趣味・特技:

野球(会社のリーグで優勝目指します)、テニス、将棋(アマ?段)

メッセージ:

(1) 3年間の活動(内:委員長は2年間)から多くの事を修得しました。

- ・人との出会いと大切さ、仕事と異なるオアントシア活動での人使いの難しさ。
- ・双方、活かし活かされる関係とその感謝の気持ちの大切さと、その実践。
- ・活動に対しヴィジョンや思いを持つ大切さ。
- ・上に立つ人の言葉の重みと責任を痛感。
- ・人前で話す事が苦にならなくなった事。

(2) 修習技術者活動の紹介や学位取得・大学院受験に関する本の共同執筆者を募集しています。

3年間の青年技術士懇談会活動の体験を活かし、昨今ブームになっている社会人キャリアアップである「修習技術者関係の活動紹介」や「大学院入学と学位取得」に関するノウハウ本を世に出したいと考えていますので、共同執筆者を募集しています。

<委員>

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

氏名: 野村 貢

技術部門: 総合技術監理部門、建設部門

役割: 副委員長、会計

勤務先等: 株式会社 建設技術研究所 東京本社

専門技術: トンネル、地下構造物、岩盤

趣味・特技: トンネル掘り

メッセージ: いろいろ渡り歩いた結果、建設コンサルタントでトンネルをやっています。人はなぜ地下に住みたがるのか?というのが目下のテーマです。鉱山や炭鉱の好きな人が好き。



青年技術士懇談会 委員・委員補佐紹介

\*\*\*\*\*

氏名：松浦 勝博

技術部門：情報工学部門，電気電子部門，総合技術監理部門

役割：第2回特別公開シンポジウム実行委員長，

出版企画グループ（責任者）

勤務先等：日本電技株式会社

技術本部 開発室 担当課長



専門技術：計測・制御に関するシステム開発，ソフトウェア開発

趣味・特技：読書（推理小説，歴史小説など），スポーツ（テニス，ボーリング，卓球），プラモ制作

メッセージ：

いや～，今年は第2回特別公開シンポジウムの実行委員長を務めてみまして，大変勉強になりました。ボランティア集団の中で比較的に大きなイベントを企画・運営するにはかなりのテクニックと労力が必要になりますね。会社の中では業務命令の名の下に，プロジェクトメンバーにあれやこれやとやらせるのは比較的楽ですが，基本的にみなさんボランティア活動ですからね，無理強いさせる訳にもいきませんし…

ただ，昨年の実績がありますからまだ良かったのではないのでしょうか？いつ，何をやらなければならないかはあらかじめ予測がたてられました。今振り返ると，昨年のシンポジウムでゼロからスタートしてプロジェクトを成功させた野村さんには頭が下がるばかりです。また，御協力いただいた委員・委員補佐のみなさま，及び協力員の方々にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

## <委員>

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

氏名：小松 秀次（こまつ しゅうじ）

技術部門：建設部門

役割：副委員長，シンポジウム実行副委員長

勤務先等：(株)石勝エクステリア 緑地事業部

専門技術：環境緑化（緑地の計画・管理・診断）

趣味・特技：庭いじり（仕事以外の），酒，アイロン掛け

ノラ猫にちょっかいを出すこと

メッセージ：ひよんなきっかけで，副委員長になりました小松です。

訳のわからないまま大役をお受け致しましたが，皆様にご指導頂きながら勉強と発見の毎日。

非常に充実した1年でした。

皆さんも青技懇に積極的に参加して下さい！楽しいですよ。

<委員>

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*

氏名:桜井裕一(さくらい ゆういち)

技術部門:建設部門(建設環境)

役割:支部交流WG(リーダー)、国際交流WG、技術士試験業務WG

勤務先等:株式会社 石勝エクステリア  
造園緑化事業部



専門技術:環境緑化(造園計画・設計・施工管理、都市緑化技術、特殊緑化技術など)

趣味・特技:スポーツ全般(テニス、スキー、スノーボード、ゴルフ、マウンテンバイク、etc)  
男の料理、温泉巡り、音楽鑑賞(特にJazz)

メッセージ:都市緑化関連、ゴルフ場コンサルティング、里山再生などに従事しています。最近は、技術営業をやっていますので何かございましたらご一報下さい。宜しく! また、年には勝てず今期で青技懇を退任しますが、今後もお付き合いの程、宜しくお願いします。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*

氏名:笠井 睦

技術部門:環境部門・建設部門・総合技術監理

役割:会計担当

勤務先等:パシフィックコンサルタンツ株式会社 環境部

専門技術:環境保全計画

趣味・特技:テニス、釣り、ダイビング、ボート、特技は子守



メッセージ:

「キツイ奴ら」という小林薫主演のTBS系列で平成元年に放送された連続ドラマが好きでした。そこに出てくる「地道」というキーワードが未だに忘れられません。なぜ、メッセージにこんなことを書くのかって?それは、このドラマを知っている人にはそういう奴だということがとてもよくわかるから。

私の生き方??当然、「地道」ではありません・・・

ちなみに、この名作、残念ながらビデオ化はされておりません。

青年技術士懇談会 委員・委員補佐紹介

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

**氏名:寺西 由夫**

技術部門：情報工学部門  
役割：広報・インターネットグループ  
勤務先等：旭化成情報システム（株）  
専門技術：システム設計  
趣味・特技：水泳、スキー、80年代軽音楽鑑賞  
メッセージ：

どんな人でもコミュニケーション欲求を持っています。  
これを健全に支えるのが本来の情報技術（IT）のあり方です。  
適切なIT導入は御社の組織としての問題解決能力を劇的に改善します。  
一緒に考えて参りましょう。各種相談、異業種交流など大歓迎。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

**氏名: 木下 英也**

技術部門：経営工学部門  
役割：技術士試験業務グループ  
勤務先等：日産自動車(株)テクニカルセンター 技術情報マネージメント部

専門技術：リソース管理(人・モノ・金・情報)と意思決定、プロジェクト管理、生産管理、組織活性化  
趣味・特技：運動全般(体力維持&強化)、読書(雑学)、映画鑑賞

メッセージ：企業内組織、専門技術部門を越えて技術論議や談話のできる青技懇は、自分にとっては非常に有意義な場です。単一組織、縦割組織が、どれほど頭を固定化させ組織全体を衰退させていくかは身に染みて経験しています。青技懇委員&委員補佐に体力のある若い技術士&士補の参加が増え、ますます活性化しているように思います。日経ビジネス(5月号)に、名古屋大学の武田教授が、技術者の権限強化で製造物責任は減らせる。三菱自工や六本木ヒルズの回転ドア等の問題に対して、社長のお辞儀に意味はない。技術的問題を技術的に技術者が説明しなければ明日の日本に繋がらない。専門職、第三者機関に属する技術士がその責任を担うべき。と書かれています。素晴らしい提案だと思えます。青技懇の若く新鮮な心で、地球に存在する明日の日本を考えていきましょう。

<委員>

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名:佐藤嘉憲

技術部門: 応用理学部門

役割: 修習技術者支援 WG、印刷当番

勤務先等: 佐藤嘉憲総合事務所

専門技術:

- 1) デザイン: グラフィックデザイン (印刷物全般)、ホームページ作成など
- 2) 心理カウンセリング: 個人・出張カウンセリング、カウンセラー紹介、心理分析、労働者支援プログラム (EAP) など
- 3) 技術コンサルティング: とくに物理および化学的計測 (熱分析、レオロジー、高分子物性など)、材料学、寿命予測
- 4) ISO/IEC 取得支援: とくに 17025、9001、9002
- 5) 基礎研究支援: 反応速度論、物理化学、高分子関連、材料学など

趣味・特技: 独身生活、家事全般、ボランティア (無料奉仕)、KJ 法、その他書ききれません。

メッセージ: 今期一番びっくりこいたことは、自分自信が独立してしまったということです。まったくの予定外でした。が、そんなことばかりも言っていられず、営業せねば! と思っていると、「専門技術」の記入内容が業務内容になってしまいました。さらに予想外なのは、1) と 2) に引き合いが集中していることです。3) -5) の私もよろしく願います。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名:平野 輝美

技術部門: 化学

役割: 広報グループ, 出版グループ, 特別シンポジウムパネリスト

勤務先等: 平野技術士事務所 代表

専門技術: セラミックスナノ粒子複合材料の開発と応用,

趣味・特技: 読書(マンガを含む, SF を好む), 麺類を連続して食べる  
こと, 忙しそうにすること, ぼーっとすること, 落ち込むこと,  
落ち込んだところから回復すること.

メッセージ:

皆様, お世話になっております. 委員として早くも1年が過ぎ去っていきました. 独立自営を指向しましたが, 侘なりません. 営業活動を活性化させる必要を痛感しております. また, 財務会計処理など, 技術士のメリットを十分に活用することも重要と思います. 今年は地道なところから出発したく思います. 昨年は, 青年技術士懇談会の皆様はじめ, 沢山の方々にお会いする機会を得ました. 人脈は財産と思ひ, これからも活動 (飲み会か) させて頂きたいと思ひます. 今後ともよろしく願ひいたします.



＜委員補佐＞

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名：原田 篤史

技術部門：生物工学部門（技術士補）

役割：出席管理グループ、会計グループ、修習技術者支援グループ

勤務先等：カジマアクアテック株式会社 技術開発部

専門技術：下水処理施設（設計・施工・維持管理）、臭気対策、土壌環境対策 etc...

趣味・特技：サイクリング、映画鑑賞、たまにボーっとしていること。

メッセージ：

出張が多く、青技懇業務が十分にできないことが多くてすいません。青技懇メンバーの皆さんは通常業務をやりながら活動されているので、そのバイタリティーに驚くとともに、非常に勉強になっています。（特に時間の使い方とか。。）

技術者としても、業務追考能力にしてもまだまだ未熟な部分が多いですが、青技懇活動で更なる自己啓発をしていきたいと思っています。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名：佐藤 大樹(さとう たいき)

技術部門：環境

役割：出席管理他

勤務先等：慶應義塾大学大学院理工学研究科

専門技術：勉強中

趣味・特技：逆立ち、ローラーブレード、散歩

メッセージ：青年技術士懇談会内では、皆さんにおんぶにだっこです。

最近、技術士会の各種例会の参加者に、学生が増えてきてうれしいです。



\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名：田村 裕美

技術部門：建設部門

役割：国際交流グループ

勤務先等：基本的にコンサルタント

専門技術：土木設計、廃棄物処理、造園設計、環境アセスメント

趣味：ライブ、農作業、競馬、釣り、スキー 特技：宴会

メッセージ：

あまりお役に立っていない委員補佐です。

分野が広く浅いのが困りもので、技術士もどれで受けようか(受かるのか!?)お悩み中。

専門分野を極めるより、プロジェクトの先頭にたってガシガシ動かしていくのが好きなので、これからさらにいろんなことに手をつけていくことでしょう。

仕事モードがオフ、もしくはアルコールが入っていなければ、意外におとなしい性格です。

＜委員補佐＞

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名:前田 正吾

技術部門：環境

役割：修習技術者支援グループ

勤務先等：日本合同肥料㈱ 技術開発部開発室

専門技術：環境測定

趣味・特技：ボウリング,地酒の発掘

メッセージ：平成 15 年 1 月一次試験に合格したばかりであるにも関わらず、青技懇総会で委員補佐に指名され、修習技術者ルーキーイヤーから濃い一年を過ごさせて頂きました。特に 3 月例会では「去年新合格者として参加していたのに、もう運営サイドにいるのか・・・」と複雑な心境でした。今年は落ち着いて行こうと思います。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名:佐々木るみゑ

技術部門：生物工学部門

役割：修習技術支援 G、国際交流 G

勤務先等：派遣研究補助員

派遣元 アデコ株式会社

派遣先 国立がんセンター研究所 疾病ゲノムセンター

専門技術：ゲノム解析、SNP s 解析

趣味・特技：旅行（バイクツーリング）読書

メッセージ：毎日のルーチンワークとは違う社会貢献、更には部門を越えた交流を経験できました。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名:斎藤 稔

技術部門：機械部門

役割：修習支援 G・試験 G

勤務先等：株式会社 藤精機製作所

専門技術：材料力学・機械力学・精密研磨・機械加工

趣味・特技：スノーボード・ものづくり一般・ガンプラ製作（決してオタクではありません）

メッセージ：

想像して形にする。

頭で思い描いたものが、現実に形に出来るかどうか？

限られた技術や道具の中で試行錯誤するのは、楽しいし勉強になります。

こんなの出来る？とお考えの方、一緒に考えましょう。ただし趣味の範囲でね。



### <委員補佐>

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

**氏名:** 柳澤 剛

技術部門: 農業部門(技術士補)、応用理学部門(技術士補)

役割: 修習支援グループ

勤務先等: 清瀬市郷土博物館

専門技術: 土壌の物理的現象等に関する基礎・応用事項

趣味・特技: 映画鑑賞等、文化芸術に関すること

メッセージ: 青年技術士懇談会では、委員補佐として勉強中。

技術士補としては、農業部門と応用理学部門にて勉強中。

仕事では、学芸員として勉強中。

人生まだまだ勉強中ですが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*



**氏名:** 山田英樹

技術部門: 建設

役割: 国際交流グループ、修習支援グループ、支部交流グループ

勤務先等: 三浦市役所

専門技術: 公共下水道の計画、設計、監理

趣味・特技: 海外旅行、スキー、弓道

メッセージ: 気づけばもう30過ぎた! 技術士補登録したときは、まだ20代半ばだったのに……。でもまだまだ例会帰りには朝まで飲んで帰ることも多いので、これからも楽しく過ごしていきたいでしょう。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

**氏名:** 井上 譲

技術部門: 建設部門

役割: 修習委員、試験委員 (ともに昨年度、委員補佐時)

勤務先等: 若築建設株式会社 東京支店 土木部

専門技術: 外郭施設および係留施設の設計、港湾計画、都市計画

趣味・特技: テニス、ラーメン探訪

港湾計画の研究

メッセージ: 委員補佐として2年間、他の委員の方々に支えられてやってこられました。今年度より、委員としてこれからの技術士会を盛り上げていけるようがんばっていきたく思います。

これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

青年技術士懇談会 委員・委員補佐紹介

＜委員補佐＞

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名：新井 靖典

技術部門：建設

役割：

勤務先等：西武建設㈱ 土木事業本部技術部環境技術研究室

専門技術：廃棄物最終処分場における土質遮水工、土壌汚染等の地盤環境に関する項目

趣味・特技：読書、ゴルフ

メッセージ：昨年度は勤務地の関係もあり、あまり青技懇の活動に参加できませんでした。9月頃には宮崎から関東に戻る予定ですので、今後は戦力になれるよう頑張ります。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

氏名： 掛川昌俊

技術部門： 機械・衛生工学

役割： 出版企画

勤務先等： 住友不動産株式会社

専門技術： 建築設備計画、エネルギー管理

趣味・特技： 絵画鑑賞、ラグビー観戦

メッセージ：青技懇活動年鑑を最後まで見て頂きありがとうございます。

至らない点もありますが、技術士会・青年技術士懇談会を通して皆様と共に活動することができ、皆様の協力のもとに活動年鑑をここまで作成することができたことを感謝いたします。

これからも青技懇に対し御指導・御鞭撻のほどをお願いいたします。

以上

**青技懇活動年鑑制作スタッフ**

＜青年技術士懇談会 出版企画ワーキンググループ＞

委員：松浦、時合、秋好、戸谷、佐藤(嘉)、平野、寺西、掛川